



Over the Horizon ~新たな景色へ~

有終の美を飾る

辞書的意味は皆さん知ってのとおり、「最後まで頑張って、立派な成果を上げる。」です。

1・2年生であれば、現在の学年でいる後1か月を、最後まで気を抜かず一生懸命に何事にも取り組むことです。3年生はこの大殿中学校の生徒として、あるいは義務教育9年間の締めくくりとして過ごす、今日を入れて5日間を、大事に丁寧に気持ちを入れて過ごすことです。いずれにしても、自分の中で連続する人生に一定の区切りをつけて、自分なりに納得のいく締めくくりをすることです。

「終わりよければ全て良し」の言葉があるように、これまでの過程で紆余曲折、様々な良いことがあれば、問題もあつたかもしれませんが、それら全てを含んでより良い締めくくりができるように、最後まで気を引き締めていきましょう。

日本の武道でいうところの「残心」の心持ちが重要です。そして、終わりが良ければ、次のステップの始まりも円滑にいくものです。

心が型に表れる

日本の武道は「型」を大事にします。そして、その型を学ぶことを重要視します。スポーツ全般にも言えることでしょう。なぜか、そのことが、上達の近道であり、より発展できる可能性を内包しているからだとも思います。

「守(しゅ)・破(は)・離(り)」という言葉を知っている人も居ることでしょう。意味としては、教えられた型を大事に身に付け守る段階から、その型を会得して、型に囚われない新たな動きを創意工夫したい意識が芽生えた段階に至り、大事にしてきた型を自分なりの工夫で造り直す、破る段階、そして、最初の型から離れ自分独自のオリジナルな型を創作する段階に至るという上達のフェーズ段階を示した言葉です。

前置きが長くなりましたが、儀式は型です。その儀式で表現したい、伝えたい、祝いたい心、思い、想いの表れです。長い年月をかけて培われたものです。決められた動作、所作、言葉、返事、歌に何を込めて、誰に、何を、伝えるのか、その思いが大事です。そして、日本人は特に行事を大事にしてきました。

卒業式という大事な節目の儀式を、記念すべき、一大行事にするのは皆さん一人ひとりの思いです。大殿中を卒業する3年生も、送り出す1・2年生も互いの思いが通じ合い、心は見えませんが、心の表れである動作、所作、返事、歌を通じて通うものです。

一つ一つの行事を大事にする人は、より豊かな人生を送ることができると思います。

人生をより豊かに

人生はメッセージです、聞きなさい。
人生は信念です、信じなさい。
人生は贈り物です、受け取りなさい。
人生は愛です、想いなさい。
人生は冒険です、挑戦しなさい。 「アフリカのことわざ」

上の言葉は、『1日1つ、教養が身につく世界のことわざ100』遠越段 著 総合法令出版の中の36番目のことわざです。解説として、次のような内容がありました。

1行目は、人にはそれぞれ天や神から与えられたミッション、使命がありそれが何か掴んで実行すること。

2行目の信念は、目標を決めたらなんとしてもやり通すという心をもてということ。

3行目の解説はありませんでしたが、人生とは、命、喜びも悲しみも全て与えられるという意味で贈り物だということでしょう。

4行目の愛は、全てのよい物は愛から生まれることを意味している。

5行目の冒険は、自分の思いを実現していこうと、励ましてくれている。
という内容でした。

人生をより良くするのは皆さん一人ひとりです。

ミッション(使命・志)、パッション(情熱)、アクション(行動)で頑張りましょう。

心を育み、脳を活性化する読書

2012年の本屋大賞になった作品です。翌年には映画にもなり、大ヒットしました。現在ドラマとして、新しく放映されています。辞書編纂にかかわるお話です。固そうな物語と思いましたが、下に記した中学生の頃の記憶に刺激されずっと以前に手にしました。難しいことはなく、おもしろいです。

私が中学生だったと思いますが、同級生の女子が辞書に関して作文を書いたのを読みました。詳細は忘れましたが、何かの言葉の意味を調べると、そこには説明と何々の項を参照と書いてあり、その項を見てみると、先に調べた言葉の項目を参照とあり、辞書を製作した人々の連携について、同級生が想像した感想を書いていました。私は、同級生の辞書編纂に携わった人々の繋がりに思いを馳せる感性と想像力に感心し、感動しました。



『舟を編む』 三浦しおん 著 光文社文庫

「大渡海」と呼ばれる新しい辞書を編纂する様子を丁寧に描きながら、編纂にかかわる人間模様が瑞々しく描かれています。

朴訥な主人公の辞書編纂にかける情熱が感動的です。また、他の下宿人との不器用な恋も微笑ましいです。

言葉の重みを実感します。